

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月27日

【評価実施概要】

事業所番号	872100896		
法人名	社会福祉法人 克仁会		
事業所名	グループホーム 恵苑		
所在地	ひたちなか市鳥ヶ台1 1 3 8 6 - 1 (電 話) 029-264-3800		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1 9 1 8 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成20年10月17日	評価確定日	平成20年4月9日

【情報提供票より】 (平成19年9月5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年9月5日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	10 人	常勤	10人, 非常勤 0人, 常勤換算 0人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	1階建ての ~ 1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	51,500 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要 (9月5日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名	
要介護1	0	要介護2	3			
要介護3	13	要介護4	2			
要介護5	0	要支援2	0			
年齢	平均	86.4 歳	最低	74 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	恵愛小林クリニック・かむかむ歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設して3年になるホームは、町内会の「空き缶やゴミ拾い」への参加、文化祭の開催や地域住民への参加の呼び掛け、体験学習やボランティアの受け入れなど、利用者が地域住民と交流を広げることができるよう働きかけている。
 管理者と職員は理念を共有するとともに、各々の役割を認識し、質の高い介護の提供を目指し、業務に励んでいる。
 ホーム内に和室を設置するなど、ゆったりとした共用スペースを確保するとともに、利用者に居心地の良い居場所づくりに取り組んでいる。
 本人や家族が希望するかかりつけ医に受診できるよう配慮するとともに、協力医療機関とは、重度化や終末期における協力、必要に応じて適切な医療を受けられる体制を構築している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価で課題となった、職員育成に関する体制づくり、利用者の残存機能に応じた対応、行政との連携強化など、課題を改善している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 外部評価の意義を理解するとともに、評価結果を踏まえ、課題の改善に取り組むなど、サービスの質の確保を目指している。 職員は利用者全員に、毎日必ず声かけをしながら体調や心身の変化の把握に努めている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 自治会長・民生委員・市職員・家族代表・利用者代表を委員とする運営推進会議を2ヶ月に1回開催しており、報告や行事等を含めた話し合いを行っている。 会議での意見・質問・要望等を記録し、サービスの向上に努めている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 年1回全家族を対象にアンケートを実施し、意見収集を行うとともに、要望等に対応できるよう検討し、対応している。 また、行事等に家族の参加を促し、意見や要望を聞く場を設けている。 ホームたより「ひなたぼっこ」を発行し、家族に配布している。 また、利用者一人ひとりの生活状況や行事予定、必要に応じて金銭の受払い状況等を報告している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会の「空き缶やゴミ拾い」等に参加するとともに、ホーム主催の文化祭に地域の参加を呼び掛けるなど、地域の方々と交流している。 また、近隣中学校や高校の生徒を体験学習として受け入れている。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「安心のある場所でありたい。人と人、心と心のつながりを忘れない。」を理念に掲げ、地域社会との交流行事に取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は「家庭の延長として安心して暮らせる心と心のつながりの実現」を図るため、毎日利用者全員に言葉かけをしながら見守り支援等に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の「空き缶やゴミ拾い」等に参加するとともに、ホーム主催の文化祭に地域の参加を呼び掛けるなど、地域の方々と交流している。 また、近隣中学校や高校の生徒を体験学習として受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義を理解するとともに、評価結果を踏まえ、課題の改善に取り組むなど、サービスの質の確保を目指している。 前回の外部評価で課題となった、職員育成に関する体制づくり、利用者の残存機能に応じた対応、行政との連携強化など、課題を改善している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長・民生委員・市職員・家族代表・利用者代表を委員とする運営推進会議を2ヶ月に1回開催しており、報告や行事等を含めた話し合いを行っている。 会議での意見・質問・要望等を記録し、サービスの向上に努めている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市との関係づくりが大切であることを認識し、常に担当者と連絡を取り合うなど、連携・協議しながら、サービスの向上に反映している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームたより「ひなたぼっこ」を発行し、家族に配布している。 また、利用者一人ひとりの生活状況や行事予定、必要に応じて金銭の受払い状況等を報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回全家族を対象にアンケートを実施し、意見収集を行うとともに、要望等に対応できるよう検討し、対応している。 また、行事等に家族の参加を促し、意見や要望を聞く場を設けている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	設置法人は複数の施設を運営しているが、グループホームの特性を考慮し、職員を異動しないよう配慮している。 職員採用にあたり、家族経験者（既婚者）を優先するなど、利用者のダメージを予防するよう配慮している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、職員を計画的に研修会に受講させるとともに、研修結果を全体会議で報告している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は、複数の福祉施設を運営する中で経験、県事業者協議会からの情報収集や事業者間の交流を行い、情報を管理者や職員に提供している。 また、管理者が市町村並びに関係機関からの情報を職員に提供するとともに、サービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用を希望する方には、ホームの雰囲気や利用者に馴染めるよう訪問してもらうなど、納得してから利用できるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は笑顔を絶やさず、利用者の立場とともに喜び、楽しみを共感できるよう支援している。 また、利用者一人ひとりの個別性を気遣いながら、場面づくりや声かけをしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活歴を把握するとともに、希望や意見を聞く、また、言葉や表情等から推察し、利用者の希望にそったサービスを提供できるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員全員で利用者一人ひとりのカンファレンスを行い、検討の結果を本人や家族に説明し、理解を得て介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態に変化が見られたときは、臨機応変に介護計画を見直しているが、家族等との話し合いや説明するまでには至っていない。	○	介護計画の見直しにあたり、家族等と話し合いや説明を行い、理解を得る取り組みが望まれる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の希望や状況に応じ、病院の通院や送迎、家族の宿泊など必要に応じて支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医に受診できるよう配慮するとともに、協力医療機関と協力し、必要に応じて適切な医療を受けられる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	管理者は利用者の重度化や終末期における対応を理解し、マニュアルを作成している。重度化や終末期の体制について、協力医療機関と連携を図る体制を構築するとともに、家族と方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の誇りやプライドを傷付けないようさりげない誘導や声かけを行っている。また、プライバシーの確保に努めるため、見守りによる支援を行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの状態や思いを配慮するとともに、趣味や買い物・散歩等の希望に沿った支援をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者と同じテーブルで楽しく食事を食べたり、片付け等を声かけしながら、一緒に行っている。 また、月1回は選択食や行事食を取り入れており、食事が楽しみなものになるよう工夫している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望を確認するなど、入浴を楽しめるよう支援している。	○	今後は、利用者の希望により、夜間に入浴する体制を検討しているので、実現できるよう期待する。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や特技を活かし、野菜づくりや花壇の手入れ、楽しみごとに取り組めるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	週1回は買物に出かけたり、日々散歩等の外出支援をしている。 また、同一建物内に設置しているデイサービスセンターと交流、支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員による見守りを徹底し、居室・玄関等の出入り口は鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策マニュアルを作成するとともに、消防署と連携を図り、年4回避難訓練を実施している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成した献立により食事をつくり、利用者一人ひとりの状態に応じて軟食や刻み食を提供している。 また、食事等の摂取量を記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームは静かな田園地域にあり、海からの涼風も心地よい。 共用空間はゆとりがあり、清潔感や生活感を感じるよう、配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者が使い慣れた物の持ち込みの他、家族用の椅子を用意するなど、利用者の心を大切にする配慮をしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。